

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070900875		
法人名	社会福祉法人 福岡愛心の丘		
事業所名	グループホーム 愛心		
所在地	博多区月隈六丁目16-11-1		
自己評価作成日	平成22年10月22日	評価結果確定日	平成22年12月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念「楽しく 美しく いつまでも 地域と共に」を職員全員が理解し、実践している。明るい雰囲気作りに努め、全てのご利用者様が楽しんで生活していただくこと、入所者と職員がひとつの家族となれるような施設を目標としている。具体的には、まず職員が入所者との信頼関係を構築することに重点を置き、日常生活においてはご本人の生活ペースを大切にしよう配慮している。希望や要望に関しては出来る限り支援するよう努めている。また、法人の方針として施設内研修だけでなく施設外研修にも積極的に参加を促し、認知症に対する知識、言葉遣いなど介護の質の向上を図っている。
法人での夏祭り、敬老会では多くの地域の方やボランティアをお招きして地域交流を図っている。近隣の小、中学校とも交流をもち、体験学習の受入や交流会を催し、地域に貢献できる施設となれるよう法人全体で取り組んでいる。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特養やケアハウス等が併設する複合型施設の一隅にあり、法人全体での地域交流や研修・指導体制、福利厚生等に力を入れている事業所である。ホームの中は、併設する施設とは趣が異なり和風の明るい雰囲気で、居室も広く個室としてのプライバシーが高いつくりとなっている。法人施設から移動してきた職員もいるが、ゆったりとした雰囲気、ハード、ソフト共に理念に沿った支援がなされている。利用者本人のサービス提供に真摯に取り組んでおり、開設以来、キッチンでの調理や、夕方からの入浴等を実施している。職員配置は標準的であるが、定着率やチームワークの良さが反映し、ハードルが高いとされる支援も円滑になされていた。今後は地域、家族、行政を巻き込んでの更なる展開が大いに期待できる事業所である。

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己評価および外部評価票

ユニット名: グループホーム 愛心 北棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に「地域とともに」という文言を含み、ミーティングや申し送り等で理念を確認し合い、地域に根付いた施設であることをスタッフが自覚している。	開設当初に作成した「楽しく、美しく、いつまでも地域と共に」を理念とし、日々の支援を通じて理念の実践に努めている。現在は利用者全員が女性であり、比較的な元気な方が多く、朝の整容の時間を十分とり、おしゃべりを楽しむ等、具体的な取り組みも見られた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方を招いて夏祭りや敬老会を毎年催している。また地域の小学校、保育園などと定期的に交流会を開催している。	併設する地域交流スペースでの趣味教室やコンサート開催、地域運動会への職員参加等、法人全体で交流の機会を確保している。また、近隣の小学校や保育所からの来訪や地域ボランティアの受入れ、清掃活動への参加等、幅広い世代との交流に努めている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学生、中学生向けに体験学習を実施し、認知症について正しく理解をしてもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回事業所の活動や取組、利用者の状況について報告をしている。そこから、委員の方から助言をいただきサービスの向上に繋げている。	民生委員、いきいきセンターふくおかの職員、家族、中学校のPTA会長、医療機関のケースワーカーの参加のもと2ヵ月ごとに開催している。会議では、事業所と利用者の近況報告、研修活動の紹介や非常災害対策の協議や意見交換等がなされている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議委員として地域包括支援センターの職員の方へ出席をいただき、サービスの向上のついてご意見をいただく機会を設けている。	運営推進会議へのいきいきセンターふくおかの職員参加や、福岡市主催の研修参加等を通じて連携する機会を確保している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の方針として身体拘束は行わないこととしており、法人内の施設内研修で身体拘束について学んでいる。また、日中は玄関の施錠をおこなっていない。	法人全体の毎年の研修計画に位置付け、スピードロックや行動制限等、身体拘束について話し合う機会を設け、職員全体で啓発する機会を確保している。また、法人全体でも身体拘束廃止委員会を設置し、廃止にむけて取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で高齢者虐待防止についての勉強会を実施し、学ぶ機会がある。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修で日常生活自立支援事業や成年後見人制度についての勉強会を実施している。また、外部研修にも参加している。	内部研修、外部研修共に年間計画に位置付け、学習する機会を確保し昨年12月には、運営推進会議にていきいきセンターふくおかの職員による勉強会を実施し、制度の周知や活用の機会に向けて取り組んでいる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には重要事項、契約内容について読み合わせを行い一項目ずつ確認している。家族、ご利用者様には納得した上で契約を行うよう努めている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に必ずご家族とご本人へ出席いただくようにし、ご意見、ご要望を聞く機会を設けている。また、それ以外でも随時、ご意見を聞き対応するようにしている。	日常的なかかわりや、運営推進会議や面会等を利用して、意見や思いの表出に努めている。意見や苦情については、内容に応じてその場での回答や、職員会議で検討した後に回答するなどの取組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送りにて職員の意見や提案を聞き、サービス向上、業務改善に努めている。また、面談にはその都度応じている。	法人全体で、毎年実施している個別面談や、毎月の職員会議で、意見やアイデアを提案する機会を設け日常的な会話の中でも話しやすい雰囲気作りに配慮している。職員の意見等は検討の上、日常の支援や運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事前にアンケートを実施し、それを基に年一度、代表者と管理者、職員が個別面談を行う機会を設けている。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用については、性別、年齢等の制限を設けることはない。また、普段より職員から意見を出しやすい環境作りを心がけている。	ヘルパ-2級を原則とし、年齢、性別、経験の有無は問わず、本人の意欲に加えて、体力的、家庭環境的に夜勤が可能か否か等を配慮し3ヶ月の試用期間を経て本採用としている。就職後は、資格取得の支援や、勤務内の外部研修への参加費負担、有給休暇取得等を支援実施し働き易い環境作りに努めている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内研修において「接遇」や「高齢者虐待」の中で高齢者の人権について触れ、職員に人権について学ぶ機会を設けている。また、毎年、人権・同和問題の企業セミナーに参加している。	人権学習会やセミナーに管理者、職員が交代で参加している。加えて、法人全体研修や事業所内でも受講報告会を開催するなど、高齢者や福祉に限らず、幅広いテーマの中で人権教育や啓発活動に取り組んでいる。	
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、施設内研修を開催し、職員が学ぶ機会を設けている。また、職員の経験、能力に合わせ施設外の研修に参加できるよう配慮している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	できる限り施設外研修の機会を設け、他施設の職員と交流する機会を設けている。また、他施設からの見学も受け付けている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話に傾聴し、不安、要望について理解するよう努めている。また、その際は情報収集だけでなく信頼関係の構築を図り、安心してサービスを利用してもらえよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ずご家族と面談し、ご家族の要望、不安を聴く機会を設けている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族と面談を行い、事業所が提供できるサービスについて話し合い、納得いただいた上で契約を行うようにしている。こちらが、先方の希望するサービスと異なる時は、他の事業所を紹介する場合がある。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の方法、野菜の育て方など職員がご利用者様から教わる機会があり、共に支えあう関係を築いている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の生活の様子を毎月、担当者から手紙でご家族に報告している。また、ご本人宛の手紙を書いてもらう等、ご家族に支援の協力をお願いする場合がある。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	髪を気にする方は美容室に行ったり、芝居が好きの方は外出援助で観劇したりと本人の希望に沿って支援している。また、面会はいつでも受付している。	利用者の趣味や習慣、知人、友人との交流等が継続できる様に、家族と連携しながら支援している。行きつけの美容室の利用等の支援事例がみられた。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が日頃から入居者の人間関係を観察し、把握している。入居者間で孤立したり、トラブルが起きないように職員が間に入り、働きかけを行う。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方やそのご家族から相談があれば支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から職員は、ご本人の言動や行動から思いを汲み取りよう努めている。必要であれば、職員間で話し合い対応している。	支援記録から、利用者一人ひとりの希望や思いを汲み取れるよう工夫した書式を採用し意向の把握に努めている。毎月のカンファレンスにて職員全員で情報提供や周知を行う記録の中から、利用者本位の支援にむけての真摯かつ丁寧な経過が見られた。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントで必ず生活歴や環境などについての情報収集を行う。入居後も疑問点や気付いた点について、ご本人やご家族からお聴きして、必要な情報をいただくよう努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、ご利用者ひとり一人の様子を観察し、過ごし方や体調等について把握する。気付いた点は記録に残し、情報の共有に努める。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者、介護職員、ご本人、ご家族が同席して定期的に担当者会議を開催している。その中で意見を出し合い、より良いケアについて模索している。	毎月カンファレンスを実施し、利用者についての情報交換や確認を行っている。定期的なモニタリング、評価、見直しのほかにも、心身状況に変化が生じた際もその都度対応し、関係者で話し合い、利用者のサービス提供に向けて現状に即した新たな計画を作成している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等、個別に介護記録に記入しており情報の共有を実施している。これらの記録を基にして、介護計画や業務の見直しに活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の希望や状況に合わせ、外出支援、食事サービス等を提供している。また、外出が負担になる方には訪問診療を勧めている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者ひとり一人のニーズを把握し、地域の美容室、喫茶店、スーパー等利用し、施設に閉じこもらない生活になるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に合わせ、馴染みのかかりつけ医療機関、事業所の協力医療機関のどちらでも対応している。受診結果は記録に残し、必要に応じご家族に連絡している。	契約時に利用者・家族が選択し、原則的に受診は家族が支援する体制とし、協力医や歯科医の往診の他にも皮膚科や眼科等と必要に応じて適切に支援している。この過程を経て、認知症専門医の受診支援の結果、短期間で症状の軽減した事例等が見られた。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護師の配置はないが、必要に応じ併設の特別養護老人ホームの看護師や協力医療機関の看護師に相談、助言を求めることができる。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な支援方法、情報を病院に提供している。入院中は定期的に病院を訪れ、ソーシャルワーカーと連携し、退院後の生活について話し合っている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、事業所でできることを説明し、重度化して対応できない場合の状況について理解いただいている。もし、重度化した場合は協力医療機関との連携を確保し、できるだけご家族に負担にならないよう配慮している。	利用見学の際に、看護師が常駐していないことも含めて、医療対応の限界や、グループホームとして対応できる心身及び生活状況について詳しく説明し、検討した上での申込みをお願いしている。入居後は状況に応じて関係者で協議し情報や方針を共有し支援している。	貴事業所の場合、重度化に限らず、在宅復帰も含めて利用者それぞれに様々な選択があるものと思われます。日常の中で把握された意向が、今後の選択の際に活かされる事は大変有意義な支援であり、今後の取組みを大いに期待します。
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成している。また、施設内研修で緊急時の対応についても勉強している。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。運営推進会議の委員として地域の消防団員の方がおられ、助言をいただいている。	同敷地内の併設事業所と合同で年2回の避難訓練を実施している。運営推進会議には民生委員や消防団からの参加もあり、助言や情報交換を行いながら、非常災害時の対策について協議している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修において、「倫理・法令遵守」「接遇」に関する勉強会を開催し、ご利用者の人格を尊重した声かけについて学ぶ機会を設けている。	個人情報保護についての研修や個人記録等も事務所での一括管理や漏洩の防止に努める等、法人全体での取組みがある。利用者への尊厳やプライバシーについても、職員全員で考える機会を確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全ての選択事項に関して、ご利用者に判断いただくようにしている。意思決定の困難な方は表情やしぐさにて判断し、対応している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日頃から、ご本人の意思を尊重し、その方の生活ペースに合わせた支援をしている。急がせたり、待ってもらうことが出来るだけない様に配慮している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から、服装や化粧などの支援は行っている。ご利用者が、特定の化粧品などを望まれる場合は、ご家族に協力いただいて購入している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜を切ったり盛り付けたり、毎食ご利用者様に手伝ってもらって作っている。食事は職員も一緒に食べ、時間を共有している。食後の片付けも一緒に行っている。	献立、調理、準備、片付け等を、利用者と職員が協力して行っている。当日は職員と利用者が同じテーブルを囲んで、和やかに食事をする光景が見られた。職員の食事代は事業所が全額負担し、利用者と同じ食事が食べられるように運営面からも配慮が見られた。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取が困難な方には、ゼリー状にして、水分補給の強化に努めている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、就寝前の義歯洗浄は必ず行っている。また、週2回、訪問歯科の診察も行っている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご自分で排泄が困難になった方でも、排泄のサインや習慣を把握し、声かけによるトイレ誘導を行い、トイレで排泄いただくよう支援している。	排泄パターンを把握しながら、支援手順を定め、可能な限り自立に向けて個別支援している。自立の利用者も多く、介助や誘導が必要な利用者のプライバシーには、特別に配慮しながら支援している状況が見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から、排便の確認を職員全員で行っている。便秘気味の方には、朝の冷水、牛乳、野菜ジュース、腹部マッサージなど個々に対策を施している。主治医へ相談し、排便コントロールも行っている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	可能な限り、ご利用者の希望に合わせ入浴してもらっている。拒否の強い方は、声かけの方法、タイミングなど工夫し入浴してもらえよう努めている。	毎日、夕方から夜にかけて入浴できるように準備している。お風呂が苦手な方にも声をかけながら、最低でも週3回以上の入浴、随時のシャワー浴を行う等、清潔保持の機会を確保している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃から、無理な声かけはせず、ご本人のペースで生活してもらえよう努めている。休息したい時は基本的に休んでいただいている。夜間、不眠の場合は話を傾聴し、不安解消を図っている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに「薬の説明書」を綴り、職員がすぐに確認できるようにしている。薬の変更があった場合は、受診記録だけでなく口頭での申し送りも行い情報の共有に努めている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理が好きな方は料理を手伝ってもらい、園芸が好きな方は花に水をやったり、野菜を育てたりして、ご本人の希望を考慮して一緒に行っている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出援助は、基本的に行事や個別支援のスケジュールの中で行っているが、その日の希望があった場合でも、可能な限り外出支援を行っている。また、特定の店や、友人との面会などについても支援している。	花見等、計画立てての外出や日常的な散歩等で、屋外にでられるように支援している。利用者によっては、外食や馴染みの美容室の利用等、家族による支援もみられた。	現在の行楽等に加えて、家族も含めての外出等は利用者、家族、職員同士の一体感と生活意欲を高める有効な手段であると思われます。年に1度というような具体的な目標を立て、実現にむけての取組みを期待します。
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に預り金として預っているが、ご本人が希望した場合は、ご家族に説明した上で、お金をご自分で所持していただいている。外出や買物時はご本人でお支払できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、いつでもご家族やご友人へ電話や手紙を出せるよう支援している。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感に配慮したディスプレイを心がけている。また、食事の席は固定しており、ご利用者が自分の場所と思って落ち着いて食べていただけるようにしている。	外観、内装ともに落ち着いた色調のつくりで、自然で和やかな雰囲気的空間となっている。天井も高く、天窓からふりそそぐやわらかな陽で明るく温かい印象を受ける。ソファや畳スペースもあり、ゆっくり、くつろげるように工夫されている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂フロア以外にも談話スペースがあり、そこで仲の良いご利用者様同士で過ごすことができる。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内のものは、全てご利用者様に自由に持ち込んでいただいているので、入居前のお部屋と同じような環境で過ごすことができる。	格子戸開きの玄関が旅館の部屋を思わせる居室である。床、ベッド、クローゼットも落ち着いた色調で統一感がある。安全にも留意すると同時に、家族の写真や馴染みの調度品等を配置し、利用者それぞれの「らしさ」が伺える居室となっていた。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の動線上に転倒につながるものがないかを検討し、事故防止を図っている。また、ご利用者の生活リハビリを、職員が声かけしながら一緒に行い、自立した生活が送れるよう支援している。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			